

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873200806
法人名	社会福祉法人 藤寿会
事業所名	グループホーム 瑞鳳荘
所在地	愛媛県今治市玉川町畑寺甲15-5
自己評価作成日	平成 28 年 9 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛と笑顔、自然がいっぱい瑞鳳荘
山や川、田んぼなどの豊かな自然に囲まれ、四季の移ろいを体いっばいに感じられる恵まれた土地にあります。共に喜び支え合う事を目標に、いつまでもその人らしく生きられるよう、温かな雰囲気づくりを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームに併設の開設後12年を経過した事業所で、近くには温泉、美術館や四国八十八か所寺院があるなど歴史の深い地域にある。四季折々の山の景色が美しく、季節の移り変わりや川のせせらぎを身近に感じることができ、リビングからは美しい田園風景が眺められ心を和ませてくれる。運営法人は高知、兵庫や東京など、多方面に医療・福祉・健康管理のサービスを展開している。地域住民とは密接な協力関係が構築されているほか、学校関連や各種ボランティアなどとの交流は、年間通じて頻回に図られており利用者の楽しみとなっている。地域医療を長年支える協力医療機関に加え、看護師の配置により医療連携が強まり、利用者の安心した生活へつながっている。勤務歴の長い職員が多く、職員同士の信頼関係も良好で利用者の体調や気分、嗜好に応じた個々への対応に努め、自由な生活を支援することができており、今後は地域と利用者をつなぐ活動や認知症の理解を深める活動が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瑞鳳荘

(ユニット名) ずいほうそう1階

記入者(管理者)

氏名 渡部 賢之

評価完了日 平成 28 年 9 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 基本理念をもとに癒される関係と環境づくりを心掛けている。また、定期的にカンファレンスを行い、その時間を利用して情報の共有や職員の意識統一を図るようにしている。</p> <p>(外部評価) 法人理念と共に、開設当時の職員で「癒しの環境の中、自由に暮らして頂く。それが私たちの願いです。」という独自の理念を作成した。開設当初からの利用者や職員も多く、理念は自分達の目指すケアそのものであると意識統一ができています。開設後12年を経た現在も愛着を持ち、理念に沿って毎月の目標を立て、具体的な取組みを行ったり、随時カンファレンスを取り入れ実践へとつなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 各種団体・ボランティア等の受け入れは積極的に行い、季節の行事や誕生日会等に訪問依頼している。小中学校の運動会や集会、文化祭等出来るだけ参加するようにしている。また夏祭りなどは地域住民参加型で毎年実施している。</p> <p>(外部評価) 隣家はないが、事業所の所在する地域出身の利用者や職員が多く、開設当初より密接な協力関係が構築できている。地域の学校関連、各種ボランティアとの交流が特にさかんで、年間を通じ行き来する機会がある。地域行事には進んで参加する積極性を持ち、地域の中に溶け込んでいる様子が伺える。災害時における地域避難所としての地域貢献も期待でき、今後も地域との連携を高める活動を継続して欲しい。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 災害など有事の際には緊急時避難場所としての役割があると考え、防災訓練などの際にも職員に説明し意識統一を図るようにしている。また、地域住民や利用者家族が気軽に来荘できる雰囲気を中心、介護相談や施設見学にも応じ、場合によっては他施設の紹介も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回の定期的な実施とはなっていないが、あまり形式にとらわれず柔軟に実施することにより、年6回の利用はできている。	
			(外部評価) 利用者、市町村担当者、併設する特別養護老人ホーム及びデイサービス職員、第三者委員、警察署や地域消防団員などに参加協力を得て開催している。年間計画を立てることで、参加型の行事や講演など身近な課題を議題に取り上げ、内容を工夫することができている。災害などの防災対策として具体的な意見交換が行われており、運営推進会議を有意義に活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への参加や2か月ごとの報告だけでなく、困難辞令検討や施設の現状などについても話し合い協力できるような体制となっている。	
			(外部評価) 市担当者は変則時間での防災訓練を含め運営推進会議へは必ず参加し、直接運営に関する実情に触れてもらう機会がある。生活保護指定事業所となっており、空室確認や生活情報の確認が定期的に行われている。困難事例などの相談に乗る機会も多く、互いに協力し合える関係が構築できている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないことにより起こりうる事故についても日ごろから家族に説明し理解を得る様になっている。また言葉での拘束ととなりうることも十分に注意している。	
			(外部評価) 対象となるケースはなく、全職員に身体拘束をしないケアが根付き実践できている。玄関及びユニットドアは防犯安全対策として夜間帯の施錠はあるが、日中は開放され、居室内の施錠もなく自由に出入りすることができる。交通の量は少ないが、周囲に田畑が多いため、土地柄を考慮した安全面での危機感を持ちながら、見守りでの対応を行っている。言葉での拘束を含め、職員の対応においては互いに注意し合える関係にある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもとより虐待に発展する恐れのある入居者間の状況・トラブルについても早期発見・対処できるように注意している。また外泊等の際には、入居者の心身の状態変化に特に注意する様にしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 瑞鳳荘入居後権利擁護事業活用から成年後見制度へ移行された方もおり、その内容や必要性については職員に説明している。また年に一度は運営推進会議のテーマとしてもとりあげ皆で勉強する機会も作っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の契約時には十分時間を取り説明し、理解を得る様にしている。また、入居に対する疑問点や今後の意向についても聞き取り話し合うようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見や考えは日々の生活の中からも汲み取るように心掛けている。家族来荘時には時間を設けて話し合いの時間を持つようにしている。また第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設と共に設置しており、定期的に会議を行っている。	
			(外部評価) 重要事項説明書をもって事業所内外の意見受付先について説明し、利用者には日々の暮らしの中で希望を聞いている。職員は開設当初より家族等との会話を大切にすることを心がけており、家族等との信頼関係を深めることにつながっていると実感がある。利用者同士が顔なじみである場合もあり、状態や希望に沿った配慮ができています。これまでに大きな苦情などはなく、法人組織として第三者委員を設けて話し合い、運営に反映させる仕組みを持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にケア会議食事会を行い、その時間を利用し、職員間の情報の共有や意識統一を図るようにしている。 (外部評価) 職員は良好な関係にあり、カンファレンスや申し送り、日常業務の中で気軽に多様な話し合いが行われている。職員同士の良い面について互いに理解し認め合うことができおり、管理者と職員間も言いたいことが言える関係にある。職員のスキルアップを図るため、資格取得や外部研修への参加を勧めていきたいと考えている。事業所内だけで解決できない課題についてはすぐに法人本部に相談できる状況にあり、代表者も度々訪問して実情についての理解がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の勤務状況や心身の状況の把握に努め、早期に的確な対応・アドバイスが行えるよう心掛けている。また個々の資質向上の為に資格取得も積極的に行うように指導している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では職員全員で考え実行していくことを基本とし、管理者及び有資格者については、各場面においてスーパーパイザーとなり、的確な判断・助言を行うようにしている。 研修については、施設内研修が中心となっており、時間的な問題もあり外部研修にはなかなか参加できていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 個人的な交流の機会やネットワークはあるが、勉強会や相互研修とはなっていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、まずその場で簡単な聞き取り調査を行い、適時面接を実施し詳細な調査を行うようにしている。 信頼関係と的確なニーズの把握・分析に努めるようにし、利用契約となる場合には、本人、家族の意見を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、まずその場で簡単な聞き取り調査を行い、適時面接を実施し詳細な調査を行うようにしている。 信頼関係と的確なニーズの把握・分析に努めるようにし、利用契約となる場合には、本人、家族の意見を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、当事業所の利用が可能、不可能に関わらず、相談や施設見学を受け入れ、必要によっては他事業所や、他サービスの紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切にし、知り得た情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際には出来るだけ時間を作っていただき、近況報告・介護計画説明をし、ご家族からの意見や要望を確認し反映できるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用契約の際、家族及び身元引受人の同意を得て家族以外の方が訪問された場合でも本人に面会できるようにしている。また誰でも気軽に来荘できる雰囲気づくりを心掛けている。 (外部評価) 入居以前の生活状況などの情報把握に努め、利用者が大切にしていきたい思いをくみ取り、現在の状況や課題を踏まえ、変わらず継続できるよう支援している。家族協力を得て定期的にお墓参りに出かけたり、自宅に帰宅する利用者もある。昔から通い慣れた美容室への支援をはじめ、利用者と馴染みの関係が途切れないよう配慮がある。地域住民やボランティア協力者が継続して訪れてくれる機会にも恵まれ、事業所を利用することで生まれた新しい関係も大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ユニットでの行動も重視し、良い仲間意識が生まれるよう配慮している。また、入居者が孤立しがちな場合や、入居者間でのトラブルが発生しそうになった場合は、速やかに職員が介入し、誤解やしこりが生じないようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居される場合でも、その利用者の適所の紹介や関係機関との連絡調整を行い退居後も本人家族が気軽に相談できる関係づくりを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切にし、知り得た情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせられるようにしている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で希望を聞き、その都度職員間で情報を共有し個々の思いに沿えるよう検討している。利用者は日常の会話の中で行きたい所や食べたいものなど気軽に要望が出せている。意向を伝えることが困難な場合、本人の立場に立って職員間で話し合ったり、家族等と連携を密にすることで本人本位に検討できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切にし、知り得た情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせられるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で出来ないことを減らし、何事も不可能と思わず出来ることを少しずつでも増やしていけるよう、自由、共感、笑顔、癒しをモットーに入居者に接するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケア会議を実施しており、職員間の意見交換、情報交換が出来る様になっている。またケアチェック表を作成し、いつでもサービス計画を確認できるようにしており、定期的に見直しもしている。	
			(外部評価) 毎週開催するケア会議で職員間でアイデアを出し合い検討している。3か月毎に介護計画を見直し、利用者や家族等の意向を取り入れ、計画作成担当者と担当職員が中心となり作成している。毎月担当者がモニタリングを実施している。計画内容について職員はよく理解しているが、記録面において十分ではない面に気付きを持っており、様式の検討や改善に取り組む姿勢を持っている。	それぞれの利用者の課題を職員はよく理解しているが、経験などにより記録方法に差がある現状にあり、様式の改善へ取り組んでいる。職員の誰もが介護計画に沿ってより具体的な記録ができ、根拠あるモニタリングへつなげることができるよう取り組んで欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のフェイスには詳細な部分まで記録し、申し送りノートには要点をまとめて記録し職員個人個人がチェックする様になっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のニーズの的確な把握に努め職員間で都度話し合うようにしている。また、同一法人の他事業所と合同での話し合いの機会を持ったり、職員間、利用者間の交流も図るようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 母体施設はもとより、駐在所、今治市役所玉川支所にも入居者名簿を提出し、相互協力できる体制をとっている。また地元消防団にも出席してもらい防災訓練なども実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期 に主治医の診察が受けられるよう心掛けている。 以前からの主治医がいる場合にはその病院を継続受診し、 症状に応じて他科の受診も行い指導を受けている。 (外部評価) 地域の協力医療機関から毎週の往診がある。また、利用者 個々のこれまで信頼するかかりつけ医や専門医の継続的な 受診もできるよう支援している。看護師が配置され、あり 日々の健康管理や医療機関と家族等の伝達が適切に行われ るよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を常勤で配置しており、各職種が協力し異常の早 期発見、疾病の予防に努め、早期に主治医の診察が受けら れるよう心掛けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者が入院した場合でも、面会、様子観察を頻回に行う ようにし、適宜、家族、医療スタッフ、主治医との話し合 いを行うようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 特変があればその都度家族に連絡し、早めに病院受診を行 い、病態に応じて医師を交えてのカンファレンスを行うよ うにしている。 見取りに関する指針は作成しているが看護職員も1名しかお らず、医療的行為が出来ないため現時点でのターミナルケ アは困難であると思う。 (外部評価) 看取りに関する指針を整備している。事業所での看取り経 験はないが、重度化した場合の支援について事業所として できることを説明し、利用者や家族等の希望を把握してい る。利用者の状態の変化に応じ、その都度迅速な対応がで きるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当てをしつつ看護師の指示を受ける様にしている。 カンファレンスの時等に、個々の対処方法について看護師が指示・指導するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 瑞鶴荘グループ防災計画を作成し今治市消防本部にも届出をしている。 年2回防災訓練を実施しており、内年1回は地元消防団にも参加を要請し、母体施設と合同で訓練を実施している。 (外部評価) 年2回併設の特別養護老人ホームやデイサービスと合同で訓練を実施し、多数の地元消防団員に立ち会ってもらい専門的なアドバイスを得ている。運営推進会議でも議題に取り上げ、参加者から意見を出してもらいなど改善への取り組みを行っている。地域の避難所としての備えを進めており、新しく導入した発電機の使用訓練も実施している。大規模災害時には事業所周辺道路が断絶し孤立する不安があり、危機感を持って災害対策を実施している。	危機感が高く、事業所周辺の課題も含めよく議論ができてきている。今後も確実な避難方法を職員が身に付ける訓練を重ねて欲しい。また地域協力者が得られる仕組みにも期待し、地域の避難所として貢献できる備えを行政や法人と協同し進めて欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の生活歴などを十分に把握し個々の状態に応じたケア・対応を実施している。職員間での介護等の相談・助言・忠告は都度実施するようにしている。 個人情報の取り扱いについても日頃より十分に注意し、職員採用時に誓約書も交わしている。 (外部評価) 利用者を取り巻く背景について職員はよく理解し、状態にあった対応に努めている。利用者や家族等の希望に沿った呼び方も取り入れている。方言の大切さは尊重し、ふさわしい言葉で声かけができていないか客観性を持って職員間で話し合うことができている。また個人情報の取り扱いについては、同意を得て適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の生活リズムに合わせ出来る限り自由な時間の入浴等を実施している。また買い物や外食の機会もとるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所として日単位、週単位のスケジュールはあるが日々の業務の遂行より、入居者の気持ちやペースを優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) モーニングケアの際に入居者と一緒にその日着る服を選び用意するようにしている。 理容・美容については、ライズ（移動福祉理美容車）によるカット、パーマ、カラーが受けられるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養士を交えた職員と入居者が何を食べたいか話し合いながら献立をたてている。 職員、入居者が一緒に食事をし、会話を楽しみながらゆったりとした食事の時間を心掛けている。	
			(外部評価) パンやコーヒーなど利用者の嗜好を考慮して、法人栄養士にアドバイスを受けながら献立を作成し、ユニット同士分担しながら調理している。衛生管理に配慮しながら下ごしらえや準備片付など利用者ができることを担ってもらっている。キッチンからは利用者の様子が見え、会話や調理の香りを楽しむことができている。また利用者の状態に応じ足元に台を設置するなど姿勢にも配慮し、職員と共に和やかな雰囲気の中で食事を楽しめている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の入居者のその日の状態に応じて、食事の形態を変更し提供できるようにしている。また食事摂取量、水分摂取量については都度チェックし記録に残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、就寝前、モーニングケアの際には、口腔ケアを行い異常があれば早期な歯科受診をするようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて排泄パターンを把握して、失禁前のトイレ誘導を実施している。また、ポータブルトイレ使用者も日中は出来るだけトイレでの排泄を促している。	
			(外部評価) 排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を第一に支援している。利用者の残存能力や機能回復に考慮し、居室でのポータブルトイレの利用や日中のトイレ排泄で柔軟に対応している。アセスメントを繰り返しながら紙パンツから布パンツへ移行する利用者もいるなど、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や適度な運動、生活リハビリはもとより、主治医と十分相談し内服薬の正確な服用を実施し、薬剤の副作用等にも注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日や時間帯は特に決めておらず、本人の意思を尊重し好きな時間に入浴が出来る様にしている。また入浴の拒否がある人には随時声掛けし入浴を進めている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本にしているが、利用者の希望や状態等に鑑み衛生や安全面を考慮しながら対応している。ユニット毎に個別浴槽もあり、利用者の身体状況に応じシャワー浴の対応もしている。入浴が苦手な利用者もいるが、家族の協力を得たり入浴が楽しめるよう誘い方なども工夫し無理強いすることなく支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来る限り自室外で過ごして頂くように促し、可能な限り戸外での活動や散歩なども実施している。また、ジブのペースで生活が送れるよう、職員室（昼の間）も開放している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬剤の管理・投薬を行い、介護職員が服用・確認をしている。 職員全員に用法・副作用等を説明し、特変があれば速やかに看護師・医師に相談するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の掃除や洗濯は職員とともに行うようにし、菜園などでの農作業なども出来るだけ手伝ってもらっている。また折り紙や小物政策なども出来る様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所周辺は自然豊かであり、日常的に散歩などは行うようにしている。また定期的にショッピングモールでの買い物や食事にも出かけている。	
			(外部評価) 事業所周辺の散歩は、日常的に行っており気分転換につながっている。身体状況の低下などもあり、全体での外出は難しくなっているが、利用者の希望を取り入れ買い物や外食などへ出かけられるよう努めている。また文化祭や学校関連など、地域行事へ参加する機会も定期的に持つようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、本人了承の上、基本的にお金の所持は少額とし、買い物の際には預り金を本人に手渡し、支払ってもらうようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロア一内に公衆電話も設置してあり、いつでも利用できるようにしている。要請があれば都度ダイヤルの介助や通訳も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間鏡に見えてしまうガラスにはカーテンを付けている。フロア内には季節の花などを積んできていけたり、入居者手作りの小物を飾ったりしている。 (外部評価) 利用者が自由に集うリビングは広いスペースが確保され、食事や作業などができるテーブル席、テレビ、くつろぎの場となる大型のソファ席や洗濯物が畳めたり横になることができる畳のコーナーがあり、ゆっくりのんびり過ごすことができる。リビングの大きな窓からは光が差し込み、全体的に明るい雰囲気である。地域活動の様子や利用者の作品が掲示されたコーナーもあり、日常の様子を窺うことができる。また飼育のメダカにほっこりと和まされたり、掃除が行き届き清潔感が保たれるなど、居心地よく過ごすことができるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りになれたり少人数の集まりの場としてはフロア内に2か所ソファを置いてある。また職員室は畳の部屋であり、自由に開放してあるのでみんなの集いの場となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 長年使いなれているタンスやソファ、家族の位牌や仏壇だけでなく、動物のぬいぐるみや小物等自由に持ち込んでもらっている。 (外部評価) 居室備品としてベッド、床頭台、洗面台、クローゼット、エアコン、テレビ、机や椅子があり、新しい生活がスムーズに始められるよう配慮されている。利用者が使い慣れた筆筒や大切にしている仏壇など、思い入れのあるものを持ち込めるようになっており、居心地よく過ごせるよう配慮している。職員は利用者が清潔に過ごしてもらえるよう居室の清掃や利用者の習慣や日頃の状態をよく把握しているなど、必要に応じたかかわりができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事業所内は全域バリアフリーとなっており、床材もクッションフロアである。生活動線上の安全確保の為に手すりを設置してあり、必要以上の物を置かないよう心掛けている。また段差なく屋外にも出られ、庭園・菜園もあり、野菜の収穫などもみんなでやっている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873200806
法人名	社会福祉法人 藤寿会
事業所名	グループホーム 瑞鳳荘
所在地	愛媛県今治市玉川町畑寺甲15-5
自己評価作成日	平成 28 年 9 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛と笑顔、自然がいっぱい瑞鳳荘
山や川、田んぼなどの豊かな自然に囲まれ、四季の移ろいを体いっばいに感じられる恵まれた土地にあります。共に喜び支え合う事を目標に、いつまでもその人らしく生きられるよう、温かな雰囲気づくりを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームに併設の開設後12年を経過した事業所で、近くには温泉、美術館や四国八十八か所寺院があるなど歴史の深い地域にある。四季折々の山の景色が美しく、季節の移り変わりや川のせせらぎを身近に感じることができ、リビングからは美しい田園風景が眺められ心を和ませてくれる。運営法人は高知、兵庫や東京など、多方面に医療・福祉・健康管理のサービスを展開している。地域住民とは密接な協力関係が構築されているほか、学校関連や各種ボランティアなどとの交流は、年間通じて頻回に図られており利用者の楽しみとなっている。地域医療を長年支える協力医療機関に加え、看護師の配置により医療連携が強まり、利用者の安心した生活へつながっている。勤務歴の長い職員が多く、職員同士の信頼関係も良好で利用者の体調や気分、嗜好に応じた個々への対応に努め、自由な生活を支援することができており、今後は地域と利用者をつなぐ活動や認知症の理解を深める活動が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瑞鳳荘

(ユニット名) ずいほうそう2階

記入者(管理者)

氏名 渡部 賢之

評価完了日

平成 28 年 9 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 基本理念をもとに癒される関係と環境づくりを心掛けている。また、定期的にカンファレンスを行い、その時間を利用して情報の共有や職員の意識統一を図るようにしている。</p> <p>(外部評価) 法人理念と共に、開設当時の職員で「癒しの環境の中、自由に暮らして頂く。それが私たちの願いです。」という独自の理念を作成した。開設当初からの利用者や職員も多く、理念は自分達の目指すケアそのものであると意識統一ができています。開設後12年を経た現在も愛着を持ち、理念に沿って毎月の目標を立て、具体的な取組みを行ったり、随時カンファレンスを取り入れ実践へとつなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 各種団体・ボランティア等の受け入れは積極的に行い、季節の行事や誕生日会等に訪問依頼している。小中学校の運動会や集会、文化祭等出来るだけ参加するようにしている。また夏祭りなどは地域住民参加型で毎年実施している。</p> <p>(外部評価) 隣家はないが、事業所の所在する地域出身の利用者や職員が多く、開設当初より密接な協力関係が構築できている。地域の学校関連、各種ボランティアとの交流が特にさかんで、年間を通じ行き来する機会がある。地域行事には進んで参加する積極性を持ち、地域の中に溶け込んでいる様子が伺える。災害時における地域避難所としての地域貢献も期待でき、今後も地域との連携を高める活動を継続して欲しい。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 災害など有事の際には緊急時避難場所としての役割があると考え、防災訓練などの際にも職員に説明し意識統一を図るようにしている。また、地域住民や利用者家族が気軽に来荘できる雰囲気を中心掛、介護相談や施設見学にも応じ、場合によっては他施設の紹介も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回の定期的な実施とはなっていないが、あまり形式にとらわれず柔軟に実施することにより、年6回の利用はできている。	
			(外部評価) 利用者、市町村担当者、併設する特別養護老人ホーム及びデイサービス職員、第三者委員、警察署や地域消防団員などに参加協力を得て開催している。年間計画を立てることで、参加型の行事や講演など身近な課題を議題に取り上げ、内容を工夫することができている。災害などの防災対策として具体的な意見交換が行われており、運営推進会議を有意義に活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への参加や2か月ごとの報告だけでなく、困難辞令検討や施設の現状などについても話し合い協力できるような体制となっている。	
			(外部評価) 市担当者は変則時間での防災訓練を含め運営推進会議へは必ず参加し、直接運営に関する実情に触れてもらう機会がある。生活保護指定事業所となっており、空室確認や生活情報の確認が定期的に行われている。困難事例などの相談に乗る機会も多く、互いに協力し合える関係が構築できている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないことにより起こりうる事故についても日ごろから家族に説明し理解を得る様になっている。また言葉での拘束ととなりうることも十分に注意している。	
			(外部評価) 対象となるケースはなく、全職員に身体拘束をしないケアが根付き実践できている。玄関及びユニットドアは防犯安全対策として夜間帯の施錠はあるが、日中は開放され、居室内の施錠もなく自由に入出りすることができる。交通の量は少ないが、周囲に田畑が多いため、土地柄を考慮した安全面での危機感を持ちながら、見守りでの対応を行っている。言葉での拘束を含め、職員の対応においては互いに注意し合える関係にある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもとより虐待に発展する恐れのある入居者間の状況・トラブルについても早期発見・対処できるように注意している。また外泊等の際には、入居者の心身の状態変化に特に注意する様にしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 瑞鳳荘入居後権利擁護事業活用から成年後見制度へ移行された方もおり、その内容や必要性については職員に説明している。また年に一度は運営推進会議のテーマとしてもとりあげ皆で勉強する機会も作っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の契約時には十分時間を取り説明し、理解を得る様にしている。また、入居に対する疑問点や今後の意向についても聞き取り話し合うようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見や考えは日々の生活の中からも汲み取るように心掛けている。家族来荘時には時間を設けて話し合いの時間を持つようにしている。また第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設と共に設置しており、定期的に会議を行っている。	
			(外部評価) 重要事項説明書をもって事業所内外の意見受付先について説明し、利用者には日々の暮らしの中で希望を聞いている。職員は開設当初より家族等との会話を大切にすることを心がけており、家族等との信頼関係を深めることにつながっていると実感がある。利用者同士が顔なじみである場合もあり、状態や希望に沿った配慮ができています。これまでに大きな苦情などはなく、法人組織として第三者委員を設けて話し合い、運営に反映させる仕組みを持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にケア会議食事会を行い、その時間を利用し、職員間の情報の共有や意識統一を図るようにしている。 (外部評価) 職員は良好な関係にあり、カンファレンスや申し送り、日常業務の中で気軽に多様な話し合いが行われている。職員同士の良い面について互いに理解し認め合うことができおり、管理者と職員間も言いたいことが言える関係にある。職員のスキルアップを図るため、資格取得や外部研修への参加を勧めていきたいと考えている。事業所内だけで解決できない課題についてはすぐに法人本部に相談できる状況にあり、代表者も度々訪問して実情についての理解がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の勤務状況や心身の状況の把握に努め、早期に的確な対応・アドバイスが行えるよう心掛けている。また個々の資質向上の為に資格取得も積極的に行うように指導している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では職員全員で考え実行していくことを基本とし、管理者及び有資格者については、各場面においてスーパーパイザーとなり、的確な判断・助言を行うようにしている。 研修については、施設内研修が中心となっており、時間的な問題もあり外部研修にはなかなか参加できていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 個人的な交流の機会やネットワークはあるが、勉強会や相互研修とはなっていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、まずその場で簡単な聞き取り調査を行い、適時面接を実施し詳細な調査を行うようにしている。 信頼関係と的確なニーズの把握・分析に努めるようにし、利用契約となる場合には、本人、家族の意見を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、まずその場で簡単な聞き取り調査を行い、適時面接を実施し詳細な調査を行うようにしている。 信頼関係と的確なニーズの把握・分析に努めるようにし、利用契約となる場合には、本人、家族の意見を考慮し個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、当事業所の利用が可能、不可能に関わらず、相談や施設見学を受け入れ、必要によっては他事業所や、他サービスの紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切にし、知り得た情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際には出来るだけ時間を作っていただき、近況報告・介護計画説明をし、ご家族からの意見や要望を確認し反映できるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用契約の際、家族及び身元引受人の同意を得て家族以外の方が訪問された場合でも本人に面会できるようにしている。また誰でも気軽に来荘できる雰囲気づくりを心掛けている。 (外部評価) 入居以前の生活状況などの情報把握に努め、利用者が大切にしていきたい思いをくみ取り、現在の状況や課題を踏まえ、変わらず継続できるよう支援している。家族協力を得て定期的にお墓参りに出かけたり、自宅に帰宅する利用者もある。昔から通い慣れた美容室への支援をはじめ、利用者と馴染みの関係が途切れないよう配慮がある。地域住民やボランティア協力者が継続して訪れてくれる機会にも恵まれ、事業所を利用することで生まれた新しい関係も大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ユニットでの行動も重視し、良い仲間意識が生まれるよう配慮している。また、入居者が孤立しがちな場合や、入居者間でのトラブルが発生しそうになった場合は、速やかに職員が介入し、誤解やしこりが生じないようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居される場合でも、その利用者の適所の紹介や関係機関との連絡調整を行い退居後も本人家族が気軽に相談できる関係づくりを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切にし、知り得た情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるようにしている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で希望を聞き、その都度職員間で情報を共有し個々の思いに沿えるよう検討している。利用者は日常の会話の中で行きたい所や食べたいものなど気軽に要望が出せている。意向を伝えることが困難な場合、本人の立場に立って職員間で話し合ったり、家族等と連携を密にすることで本人本位に検討できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また、傾聴を大切にし、知り得た情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で出来ないことを減らし、何事も不可能と思わず出来ることを少しずつでも増やしていけるよう、自由、共感、笑顔、癒しをモットーに入居者に接するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケア会議を実施しており、職員間の意見交換、情報交換が出来る様になっている。またケアチェック表を作成し、いつでもサービス計画を確認できるようにしており、定期的に見直しもしている。 (外部評価) 毎週開催するケア会議で職員間でアイデアを出し合い検討している。3か月毎に介護計画を見直し、利用者や家族等の意向を取り入れ、計画作成担当者と担当職員が中心となり作成している。毎月担当者がモニタリングを実施している。計画内容について職員はよく理解しているが、記録面において十分ではない面に気付きを持っており、様式の検討や改善に取り組む姿勢を持っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のフェイスには詳細な部分まで記録し、申し送りノートには要点をまとめて記録し職員個人個人がチェックする様になっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のニーズの的確な把握に努め職員間で都度話し合うようにしている。また、同一法人の他事業所と合同での話し合いの機会を持ったり、職員間、利用者間の交流も図るようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 母体施設はもとより、駐在所、今治市役所玉川支所にも入居者名簿を提出し、相互協力できる体制をとっている。また地元消防団にも出席してもらい防災訓練なども実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期 に主治医の診察が受けられるよう心掛けている。 以前からの主治医がいる場合にはその病院を継続受診し、 症状に応じて他科の受診も行い指導を受けている。 (外部評価) 地域の協力医療機関から毎週の往診がある。また、利用者 個々のこれまで信頼するかかりつけ医や専門医の継続的な 受診もできるよう支援している。看護師が配置され、あり 日々の健康管理や医療機関と家族等の伝達が適切に行われ るよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を常勤で配置しており、各職種が協力し異常の早 期発見、疾病の予防に努め、早期に主治医の診察が受けら れるよう心掛けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者が入院した場合でも、面会、様子観察を頻回に行う ようにし、適宜、家族、医療スタッフ、主治医との話し合 いを行うようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 特変があればその都度家族に連絡し、早めに病院受診を行 い、病態に応じて医師を交えてのカンファレンスを行うよ うにしている。 見取りに関する指針は作成しているが看護職員も1名しかお らず、医療的行為が出来ないため現時点でのターミナルケ アは困難であると思う。 (外部評価) 看取りに関する指針を整備している。事業所での看取り経 験はないが、重度化した場合の支援について事業所として できることを説明し、利用者や家族等の希望を把握してい る。利用者の状態の変化に応じ、その都度迅速な対応がで きるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当てをしつつ看護師の指示を受ける様にしている。 カンファレンスの時等に、個々の対処方法について看護師が指示・指導するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 瑞鶴荘グループ防災計画を作成し今治市消防本部にも届出をしている。 年2回防災訓練を実施しており、内年1回は地元消防団にも参加を要請し、母体施設と合同で訓練を実施している。 (外部評価) 年2回併設の特別養護老人ホームやデイサービスと合同で訓練を実施し、多数の地元消防団員に立ち会ってもらい専門的なアドバイスを得ている。運営推進会議でも議題に取り上げ、参加者から意見を出してもらうなど改善への取り組みを行っている。地域の避難所としての備えを進めており、新しく導入した発電機の使用訓練も実施している。大規模災害時には事業所周辺道路が断絶し孤立する不安があり、危機感を持って災害対策を実施している。	危機感が高く、事業所周辺の課題も含めよく議論ができています。今後も確実な避難方法を職員が身に着ける訓練を重ねて行って欲しい。また地域協力者が得られる取組みにも期待し、地域の避難所として貢献できる備えを行政や法人と協同し進めて欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の生活歴などを十分に把握し個々の状態に応じたケア・対応を実施している。職員間での介護等の相談・助言・忠告は都度実施するようにしている。 個人情報の取り扱いについても日頃より十分に注意し、職員採用時に誓約書も交わしている。 (外部評価) 利用者を取り巻く背景について職員はよく理解し、状態にあった対応に努めている。利用者や家族等の希望に沿った呼び方も取り入れている。方言の大切さは尊重し、ふさわしい言葉で声かけができていますか客観性を持って職員間で話し合うことができている。また個人情報の取り扱いについては、同意を得て適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の生活リズムに合わせ出来る限り自由な時間の入浴等を実施している。また買い物や外食の機会もとるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所として日単位、週単位のスケジュールはあるが日々の業務の遂行より、入居者の気持ちやペースを優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) モーニングケアの際に入居者と一緒にその日着る服を選び用意するようにしている。 理容・美容については、ライズ（移動福祉理美容車）によるカット、パーマ、カラーが受けられるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養士を交えた職員と入居者が何を食べたいか話し合いながら献立をたてている。 職員、入居者が一緒に食事をし、会話を楽しみながらゆったりとした食事の時間を心掛けている。 (外部評価) パンやコーヒーなど利用者の嗜好を考慮して、法人栄養士にアドバイスを受けながら献立を作成し、ユニット同士分担しながら調理している。衛生管理に配慮しながら下ごしらえや準備片付など利用者ができることを担ってもらっている。キッチンからは利用者の様子が見え、会話や調理の香りを楽しむことができている。また利用者の状態に応じ足元に台を設置するなど姿勢にも配慮し、職員と共に和やかな雰囲気の中で食事を楽しめている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の入居者のその日の状態に応じて、食事の形態を変更し提供できるようにしている。また食事摂取量、水分摂取量については都度チェックし記録に残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、就寝前、モーニングケアの際には、口腔ケアを行い異常があれば早期な歯科受診をするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表にて排泄パターンを把握して、失禁前のトイレ誘導を実施している。また、ポータブルトイレ使用者も日中は出来るだけトイレでの排泄を促している。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を第一に支援している。利用者の残存能力や機能回復に考慮し、居室でのポータブルトイレの利用や日中のトイレ排泄で柔軟に対応している。アセスメントを繰り返しながら紙パンツから布パンツへ移行する利用者もいるなど、自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 飲食物の工夫や適度な運動、生活リハビリはもとより、主治医と十分相談し内服薬の正確な服用を実施し、薬剤の副作用等にも注意している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴の曜日や時間帯は特に決めておらず、本人の意思を尊重し好きな時間に入浴が出来る様にしている。また入浴の拒否がある人には随時声掛けし入浴を進めている。</p> <p>(外部評価) 週3回の入浴を基本にしているが、利用者の希望や状態等に鑑み衛生や安全面を考慮しながら対応している。ユニット毎に個別浴槽もあり、利用者の身体状況に応じシャワー浴の対応もしている。入浴が苦手な利用者もいるが、家族の協力を得たり入浴が楽しめるよう誘い方なども工夫し無理強いすることなく支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中は出来る限り自室外で過ごして頂くように促し、可能な限り戸外での活動や散歩なども実施している。また、ジブのペースで生活が送れるよう、職員室（昼の間）も開放している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬剤の管理・投薬を行い、介護職員が服用・確認をしている。 職員全員に用法・副作用等を説明し、特変があれば速やかに看護師・医師に相談するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の掃除や洗濯は職員とともに行うようにし、菜園などでの農作業なども出来るだけ手伝ってもらっている。また折り紙や小物政策なども出来る様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所周辺は自然豊かであり、日常的に散歩などは行うようにしている。また定期的にショッピングモールでの買い物や食事にも出かけている。 (外部評価) 事業所周辺の散歩は、日常的に行っており気分転換につながっている。身体状況の低下などもあり、全体での外出は難しくなっているが、利用者の希望を取り入れ買い物や外食などへ出かけられるよう努めている。また文化祭や学校関連など、地域行事へ参加する機会も定期的に持つようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、本人了承の上、基本的にお金の所持は少額とし、買い物際には預り金を本人に手渡し、支払ってもらうようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロア内に公衆電話も設置してあり、いつでも利用できるようにしている。要請があれば都度ダイヤルの介助や通訳も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間鏡に見えてしまうガラスにはカーテンを付けている。フロア内には季節の花などを積んできていけたり、入居者手作りの小物を飾ったりしている。 (外部評価) 利用者が自由に集うリビングは広いスペースが確保され、食事や作業などができるテーブル席、テレビ、くつろぎの場となる大型のソファ席や洗濯物が畳めたり横になることができる畳のコーナーがあり、ゆっくりのんびり過ごすことができる。リビングの大きな窓からは光が差し込み、全体的に明るい雰囲気である。地域活動の様子や利用者の作品が掲示されたコーナーもあり、日常の様子を窺うことができる。また飼育のメダカにほっこりと和まされたり、掃除が行き届き清潔感が保たれるなど、居心地よく過ごすことができるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りになれたり少人数の集まりの場としてはフロア内に2か所ソファを置いてある。また職員室は畳の部屋であり、自由に開放してあるのでみんなの集いの場となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 長年使いなれているタンスやソファ、家族の位牌や仏壇だけでなく、動物のぬいぐるみや小物等自由に持ち込んでもらっている。 (外部評価) 居室備品としてベッド、床頭台、洗面台、クローゼット、エアコン、テレビ、机や椅子があり、新しい生活がスムーズに始められるよう配慮されている。利用者が使い慣れた筆筒や大切にしている仏壇など、思い入れのあるものを持ち込めるようになっており、居心地よく過ごせるよう配慮している。職員は利用者が清潔に過ごしてもらえるよう居室の清掃や利用者の習慣や日頃の状態をよく把握しているなど、必要に応じたかかわりができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事業所内は全域バリアフリーとなっており、床材もクッションフロアである。生活動線上の安全確保の為に手すりを設置してあり、必要以上の物を置かないよう心掛けている。また段差なく屋外にも出られ、庭園・菜園もあり、野菜の収穫などもみんなでやっている。	